

「駿ちゃん殺し」の核心を掴んだ!

赤と黄で彩られた「8個の円」

ここに一枚の「絵」のよう
なカラー写真がある。一見す
ると黒地の紙に、子供が赤と
黄の絵の具を適当にまき散ら
したように見える。が、それ
をしばらく凝視していると、
赤や黄色の色が形作る「8個
の円」が、ぼんやりと浮かん
でくる――。

実は、左に掲載した写真は、
長崎の幼児全裸殺人事件で逮
捕された12歳少年の脳の断層
写真なのである。この写真は、
少年の凶悪犯罪を考えるうえ
で極めて重要な資料であり、
不可解な犯行の謎を解く「鍵」
が隠されている。しかし、こ
れまでいっさい公開されるこ
とはなかった。

写真を分析し、犯行の謎を
解明していく前に、事件その
ものを振り返ってみよう。
7月1日夜、長崎市内で両

脳写真は精神鑑定の一過程として撮影された

親と市内の大型電気店を訪れ
ていた種元駿ちゃん(4歳)
が行方不明になり、翌日にな
って遺体が発見された。事件
から8日後、長崎県警は12歳

の中学1年生を補導。駿ちゃ
んを立体駐車場に連れて行
き、全裸にして、はさみで性
器を傷つけるなど性的な暴行
を加えた末、駐車場の屋上か
ら地面に突き落とすとして殺害し
たことを認めた。
長崎家裁は、少年を精神鑑
定に付したうえ、9月29日の
第2回審判で児童自立支援施
設での保護処分を決定してい
る。

殺人少年の 殺事実が!

きにくい状態》(所見より)

種元駿ちゃんを殺害した長崎の12歳少年は、今、埼玉県
さいたま市の住宅街にある児童自立支援施設で暮らしてい
る。性器をはさみで傷つけるなど、その犯行はあまりに猟
奇的だったが、犯行の動機については、家裁での審判を終
え、措置が決まった今でも、十分には明らかになっていな
い。だが、本誌はその手がかりとなる重要な資料を入手し
た。精神鑑定書に付されていた12歳少年の「脳断層写真」。
そこに隠されていた驚くべき事実とは――。

この間、少年の両親は、弁
護士を通じて駿ちゃんの両親
に謝罪の手紙を渡したとされ
る。さらに、10月1日、地元

紙の長崎新聞の取材に応じ、
「息子を一生懸命育てたが、
すべて私たち2人の責任」
「家裁の処分は」息子のこと
とはいえ、軽すぎる。きちん
と病気を治し、罪を償うまで
出てきて欲しくない」「息子
と3人で一生償っていきたく
い」などと述べたが、

現在まで駿ちゃんの両親
親への直接の謝罪はな
されてない。

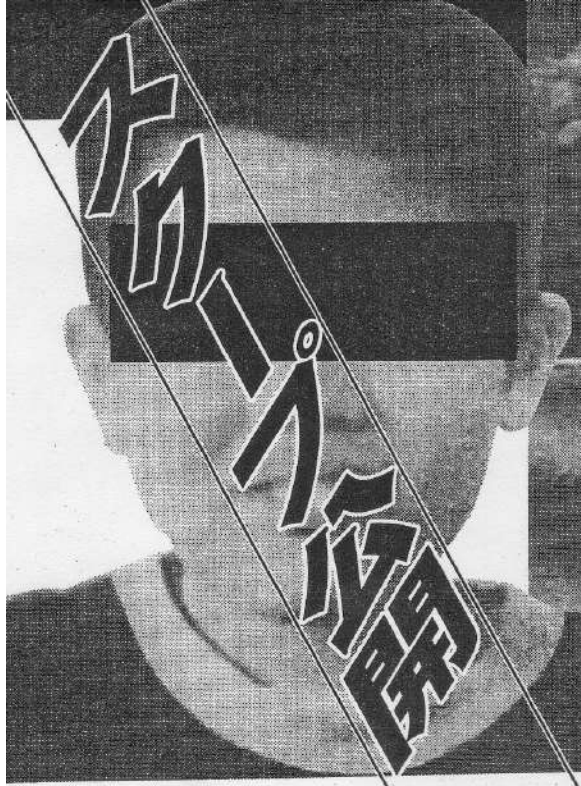
一方、駿ちゃんの両親
親も、10月6日に、「私
たちの悲しみは尽きる
ことはありません」と
したうえで、「公にさ
れていない部分も次第
に明らかにされること
を切望します」との談

話を発表した。
その「公にされていない部
分」の核心が、脳の断層写真
なのである。

まず、公にされている事件
の原因・動機とは何か。長崎
家裁では、9月29日に12歳少
年の自立支援施設送致を決め
た際、非公開の少年審判とし
ては極めて異例の、約500
0字にも及ぶ決定理由の要旨
を公表した。

遺族の悲しみは尽
きることがない





断層

長崎12歳

「脳写真」に衝撃

《脳機能に異常が認められる。抑制が利

それによると、(以下、△▽内は要旨より) △少年は幼稚園のころから頻繁に、教師の注意や母のしつ責に過剰に反応して混乱状態となり、かんしゃくを起こしたり▽などの行動が見られ、△衝動的で周囲の予想できない反応を示す

「極度の睡眠不足状態に類する」

この広汎性発達障害の一亜型とは何か。高橋紳吾・東邦大学医学部助教授(精神医学)は次のように解説する。

「アスペルガー症候群といわれる自閉症の一種です。他人との関係がうまくいかなかったり、繰り返し同じことを聞いたり、特別なものに異常に関心を示すという特徴があ

傾向が見られる▽とし、△男性性器への異常なこだわりが見られ▽するように、△限定された異常な興味のパターンにとられる傾向がある▽と分析。これらの資質から、広汎性発達障害の一亜型であると判断した。

る」

2000年5月に愛知県豊川市で17歳の少年が「人を殺す経験がなかった」と主婦を殺害する事件があったが、精神鑑定の結果、やはり、アスペルガー症候群と診断されている。

「ただし、これが殺人に直結するわけでは決していない。こ

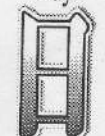
お酒は20歳になってから。

東北に酒あり

福島県会津若松市
栄川酒造株式会社
本社/福島県会津若松市駅前町2番1号
製麹工場/福島県耶麻郡磐梯町大字更科
字中曾根平6841-11
☎0242(22)7530

日本名水百選 磐梯の名水仕込

高橋克彦 待望の自伝的連作集



僕の回りに夢があった。だけど、
未来はまるで見えなかった。
絶賛発売中!! 小学館
定価 本体1,500円+税

の症候群の人は知能が高く、
関心の対象によっては社会的
に成功するケースも稀ではな
い。たとえば、世界的に有名
なコンピュータ会社の経営者
もこの症候群だといわれてい
るほです」(高橋助教)

要旨にも、このアスペルガ
ー症候群が本件非行に影響
していることは確かである
が、同障害そのものが直接本
件非行に結びつくものではな
いVと明記されている。その
うえで、中学入学など環境の
変化や両親のいさかいが絶え
ないことで精神的なストレス
を抱えたことを背景に、他人
への共感性の乏しさと、男性
性器への異常な関心などがあ
いまって、犯行に及んだと結
論づけているのだ。

以上が、これまで公開され
ている少年の犯行の原因・動
機だが、前述した脳の断層写
真を分析していくと、まった
く異なる原因が浮かび上がっ
てくる。

写真は、7月23日から9月
19日にかけて長崎家裁の決定
により行なわれた精神鑑定
の中で撮影されたものだ。鑑
定は精神医学が専門の地元・長
崎大学医学部のA医師が担当
した。

刑事事件における容疑者へ
の精神鑑定では、まず、脳腫
瘍などをはじめ脳機能に異常
がないかを検査するため、必
ず脳の断層写真を撮影する。
これが精神面での問題につな
がっている場合が少なくない
からだ。さらに、ロールシャ
ッハテスト(※①)など各種

心理テスト、そして問診が行
なわれ、考察の結果とともに
精神鑑定書にまとめられる。
今回の少年の写真は、鑑定
医による「所見」が記された
うえで、他の精神鑑定書類と
ともに長崎家裁に提出され
た。

家裁がこの部分を審判の判
断材料としたのか否かは不明
だが、その所見欄には、次の
ような衝撃的な内容が記され
ていたのである。

△脳機能に異常が認められ
る▽△脳の活動が低下してい
る▽△抑制が利きにくい状態
を示している▽△極度の睡眠
不足の状態に類する▽。
これは、何を意味するのか。
それを示す前に、断層写真
がどのように撮られたものか
を知っておく必要がある。

発色して写真に写るのです」
ブドウ糖を吸収する場所は
血流が活発になるため、それ
が色となって現われる。最も
脳の活動が活発な部分は、赤
く発色し、それに次ぐ部分は
黄色に発色する。
では、少年の断層写真はど
うか。

精神科医の町沢静夫・立教
大学教授は、
「この写真だけで、すべてを
判断するわけにはいかない
が」
と断わったうえで、次のよ
うに指摘する。

「正常な脳に比べ、赤や黄の
発色部分が極端に少ないこと
が特徴的です。正常な脳の場
合、前頭葉(※②)をはじめ、
脳全体がほぼまんべんなく発
色します。それに比べると、
この脳は極端に活動が少な
い。つまり、血流が乏しく脳
の機能が低下状態にあるとい
えます」

工藤院長は次のように見る。
「正常な12歳の少年に比べ、
脳の代謝(働き)が落ちてい
るように見える。普通なら、
大脳皮質(49%上の写真では、
脳の輪郭にそった周辺部分)が

もう少し赤くなっているはず
です。他の検査結果をみかけ
れば、より詳しいことはわか
りませんが」
こうした機能異常は、何が
原因で起こるのか。

「脳の代謝(活動)異常が認
められても、原因を特定する
ことは難しい。例えば、統合
失調症の場合、前頭葉の血流
が低下したり、アルツハイマ
ー病の場合、頭頂葉(※③)
部の血流が低下するという現
象が見られるということはお
りません」(秋田県立脳血管研究
センター神経内科・長田乾医師)
さらに、複数の専門家に取
材すると、脳の機能障害の状
態を呈しているも、腫瘍のよ
うな顕著な原因が見つからな
い場合も多く、それらは先天
的な障害というしかないとい
う。

犯行の謎を解くうえで重要
なのは、この脳の機能障害が、
精神面に深刻な影響を及ぼし
ている可能性があるという点
である。

「感情の抑制を司る脳の部位
は、主に前頭葉といわれてい
ますが、全体的に血流量が不
足し、機能低下していること

先天的な機能障害の可能性

写真は、PET (Positron
Emission Tomography)とい
う手法で撮影されたものだ。

工藤千秋『くどうちあき脳
神経外科クリニック』院長が
解説する。

「PETは脳の代謝(活動)

を見る検査です。ブドウ糖に

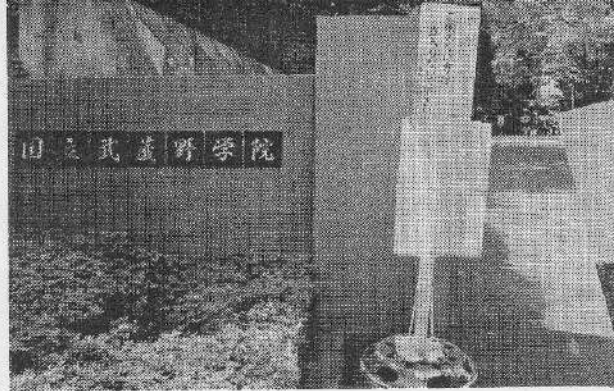
ラジオアイソトープ(放射性

同位元素)をつけて注射した

うえで、脳の断層写真を撮影
します。すると健常に働いて
いる脳はブドウ糖を吸収する
ため、その部分は赤や黄色に

を見る検査です。ブドウ糖に
ラジオアイソトープ(放射性
同位元素)をつけて注射した
うえで、脳の断層写真を撮影
します。すると健常に働いて
いる脳はブドウ糖を吸収する
ため、その部分は赤や黄色に

(※①) ロールシャッハテスト 被験者に左
右対称のインクのしみを見せ、その形から何
が見えるかと問いかけ、そこから得られた回
答を分析することで人格評価を行なうテスト



少年が暮らす武蔵野学院。周囲には金網が張り巡らされている

「残念なことに、こうした脳の機能障害を抱えた人のなかに、犯罪を犯してしまう例が少なからず見受けられるのも事実です。」

抑制が利かないため、具体的には怨恨があるわけでもない相手、極端な場合は見ず知らずの人間に対し、暴力など

児童施設で脳治療ができるのか

から、少年は自分の欲望が抑えられない、衝動が抑えられない、という状態に直面していたはずだ。

わかりやすくいうと、少年の脳は、正常な人が極度の睡眠不足に陥った際の状態と酷似している。この一時的な睡眠不足状態は、誰でも経験があるでしょう。意識が拡散し、集中力が欠け、判断力が鈍る。感情の抑制が利かなくなりま

す。これが、常に続いている状態が考えられるわけです」(町沢教授)

また、町沢教授は、「脳の機能障害が直接犯罪に結びつくものではない」としたうえで、こういう。

「もし、腫瘍などがあるのなら脳外科の手術で取り除くことはできますが、原因のほつきりしない脳の血流低下となると、治療のしようがない」(前出・長田医師)

を振るう危険性があるので最近では、今年9月に死刑が確定した大阪教育大学付属小学校連続殺傷事件の宅間守死刑囚の例がある。犯行とのつながりは明確にされなかったが、精神鑑定で前頭葉の機能障害が明らかになった。

また、町沢教授によれば、「脳の機能障害に対してできることは、精神医学的な視野から、患者の精神力を高め、脳の機能を正常化させていくような訓練です。アメリカでは効果的な科学療法が確立されていますが、残念ながら日本では導入すらされていません。(少年が送致された)児童自立支援施設・武蔵野学院は、はたしてそれを実践できるのでしょうか。心許ないというのが私の実感です」

少年が送致された武蔵野学院には、医師が1名、看護師1名が常駐。加えて、非常勤の心理療法士が1名おり、児童の医学的、心理学的ケアにあたっているが、

「脳の機能障害などをケアする体制はまったく組まれていない」(武蔵野学院を管轄する厚生労働省関係者)

こので、被害者遺族、そして12歳少年の両親が切望する「更生」が可能なのか。少年は14歳に満たないで刑罰法令に触れる行為をした少年V(少年法第3条①の二)のため、医療スタッフの充実した医療少年院ではなく、開放施設である児童自立支援施設に、自動的に送致された。

少年の場合、犯罪の重大性から、最長で1年間行動の自由が制限される「強制的措置」がとられ、鍵のかかる部屋で暮らすことになっている。が、1年後には改めてその後の措置が家裁で審査されることが決まっている。

「児童自立支援施設への入所期間は通常1年。制度的にみれば、その時点で更生された」と判断されれば出てくることも考えられる。ただ、場合によっては14歳になるのを待つて医療少年院へ送致することも考えるべきだと思います」(子供の臨床心理に詳しい長谷川

博一・東海女子大学教授) 近年、少年による動機不明の犯罪が頻発している。

前述の豊川の17歳少年の主婦殺害事件。2000年に起きた、佐賀の17歳少年によるバスジャック殺人事件。そして、1997年、14歳の少年「酒鬼薔薇聖斗」による児童連続殺傷事件。

その「酒鬼薔薇」は現在、東京・八王子市の医療少年院に収容されており、今秋にも出院が予定されている。だが、いずれのケースでも犯人が少年ゆえ、家裁での審判も非公開であったし、精神鑑定書も公開されていない。なぜ、どうして殺人が行なわれたのか、十分な原因究明がなされていないのか。本当に更生したのか大いに疑問だ。

犯罪の発生原因を、こうした脳の機能障害などもタブー視することなく、科学的に解明し公表することが必要なのではないか。

本誌が入手した12歳少年の脳写真には、そのことをわれわれの社会に向けて、鋭く突きつけているのである。

次号はW袋とじ特大号10月20日(月)発売 特別定価 340円 新連載 エッセイ 橋下徹『まっとう勝負!』

(※②、③) 前頭葉と頭頂葉 大脳は前頭葉と側頭葉、後頭葉、頭頂葉4つの部位に分けられる。頭の前部に位置する前頭葉は知能と密接な関係があるといわれる。ここに障害を生ずると、他者に配慮がない一人よがりな性格に変化するケースがある。また、頭の上部に位置する頭頂葉は体の動作や感覚などと関係がある